

## 第 1 回専門委員会検討案の再検討結果

## 1 環境目標値の見直しの検討

項 目		再検討案	第 1 回提示案
検討方法		1 日ごとの降下量調査と市民モニターによる状況記録の結果を突合して生活環境上の支障がないと考えられる水準を検討する	
1 日ごとの降下量調査	調査時期	春と夏に調査を実施	南西系の風が吹きやすい夏季（7月下旬～8月）
	調査日数	各季とも 1 日ごとの調査を 14 日間実施	週 4 回の採取を 2 週間実施
	調査地点	全測定地点（12 地点）	臨海部 2 地点
市民モニターによる状況記録	記録期間	春・夏の調査期間のうち約 30 日間（計 60 日）	降下量調査と同期間
	モニター数	調査地点周辺に居住する住民から約 380 人分の回答が必要	調査地点周辺に居住する住民 20 人×2 か所=40 人に依頼

## 2 再検討案に関する課題

(1) 市民モニターによる状況記録について、統計的に偏りのない信頼性のある結果として市民の総体としての意見を把握するとした場合、必要となる約 380 人以上の回答を回収することが困難である。

- ・ 30 日連続の状況記録については、モニターの負担も大きく、通常のアンケート調査と比較し回収率が低下することや、記録の欠測が生じることが想定される。
- ・ 類似事例がなく、モニターの無作為抽出の方法や解析に有効な回答数及び内容が得られるかが明らかでない。
- ・ 外部委託が必要であり、データの集計・解析に相当の経費を要する。

(2) 調査結果から適切な評価方法を設定することが難しい。

- ・ 1 日単位のモニタリングを 12 地点で 365 日行うことは、業務量、調査体制、経費の面から現実的に対応困難。
- ・ 全日調査に代えて特定の日を設定して調査することとしても、問題のある日を見逃すなど生活環境の支障の有無を把握する上で適切でない。
- ・ 1 日単位の数値を月間値として換算する有効な手法が見いだせない。

## 3 結果

1 日ごとの降下量調査と市民モニターによる状況記録を活用する案については、2 つの課題をクリアすることが困難である。

このため、環境目標値の見直しについては、第 1 回専門委員会における委員意見や他自治体の事例を参考に、改めて検討する（資料 4）。

## 4 備考

市民モニターの活用については、本専門委員会とは別に検討する。